

有縁の皆さんでお読み下さい

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

戦場において百万人に勝つよりも、ただ一つの自己に克つ者こそ、じつに最上の勝利者である

お念仏の 家族に なるう

毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

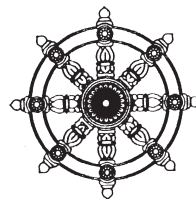
お寺のかわら版

じゅんしょうじほう

純正寺報

青色青光

No.314



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス：purity-temple.since1499@nifty.com

法話 坂田組
 蒲生上組
 藤澤 信照 師
 河村 節子 師

彦根組
 親鸞聖人讃仰
特別布教
 親鸞聖人御誕生八五〇年
 立教開宗八〇〇年
 お待ち受け

日時 七月三十日（土）
 午前九時三十分～十一時三十分
 会場 彦根愛昇殿（彦根市高宮町）
 二階大ホール
 （大駐車場有り）

YouTube 純正寺チャンネル

LINE 純正寺公式アカウント



QRコードリーダーで読み込んでください。

7月25日（月）
 10:00~11:30 13:30~15:30
こんき常例布教
 法話：純正寺 釋 覚恵 住職
 演題「己が身に引き比べて」

純正寺の法要は「YouTube」「LINE LIVE」で、生配信でも録画でもご視聴・お聴聞していただけます。

住職法話我聞如是

われかくのごとくきく

己が身に引き比べて

戦争の傷跡から学ぶべきこと・上

世のなか安穏なれ

ロシアのウクライナ軍事侵攻から四ヶ月、未だロシア軍とウクライナ軍の戦鬪は収まるどころか激しくなっただけです。そして、そこから遠く暮らす私たちも、毎日のようにその様子を映像で目の当たりにしています。しかし、それは日本から遠く離れた国で起こっていることと、まるで対岸の火事のように感じているのかもしれない。あの惨状は、明日の日本かもしれないのに。一日も早く、ウクライナの人々に不安のない安心して暮らせる日常

が戻ることを、「世のなか安穏なれ」と願うばかりです。

私は毎年、七月になると「これで戦争が完全に終わったと思える日はいつくるのだろうか」と感じています。何故なら、純正寺は未だに太平洋戦争の影響を受け続けているからです。皆様はご存知でしょうか、あるいは覚えていらつしやるでしょうか。純正寺が本堂のないお寺であった時代が四十年あまりあったことを。

譲渡令書

太平洋戦争が、日本の降

伏・敗戦で終わった昭和二十年。当時の純正寺は、現在の場所から北東に二百メートルほどの所にありました。今の純正寺とはかなり色合いの違う、立派な土塀に囲まれた三百坪の境内に、山門、鐘楼、八間四面の本堂、大広間、書院、座敷、奥座敷、イチヨウの木、藤棚など、寺院としての設備を豊かに備えた寺院でした。

当時の報道とは裏腹に、敗戦色が次第に濃くなっていった昭和二十年。三月の

東京・大阪の大空襲を皮切りに、全国各地で米軍機による爆撃が頻繁になる中、純正寺のある彦根市にも五月六月にかけて爆弾が投下されるようになってきました。日本全土が焦土と化す

恐れが出てきた中、政府は当時の防空法にあった、空襲等による火災発生時の延焼を防ぐための家屋疎開を積極的に進めたのです。滋賀県では、七月五日に大津市内の対象建物に対して知事名で「譲渡令書」という建物疎開の命令書を発行し、直ちに建物を疎開するように命じました。その中、浄土真宗本願寺派の寺院では、日赤病院に隣接していた近松別院と光現寺がその対象となったのです。

国民義勇隊

それから三日後の七月八日、今度は彦根市に同じ措置がなされます。当時の彦根市内では、近江航空、印刷・造幣局、滋賀銀行、彦根警

察署、彦根電話局の五ヶ所
が爆撃を受ける可能性の高
い建物に指定され、各建物
から半径三十メートル以内
の建物に対して譲渡令書が
発行されました。当時の純
正寺は、これら指定建物の
中、印刷・造幣局に寺院の
全施設が隣接していたこと
から、すべての建物を疎開
しなければならなくなった
のでした。

建物疎開とは、正確には
建物を別の土地に移築する
ということ。しかし、
純正寺の本堂をはじめと
する寺院の建物を解体して
移築する技術を持った人な
ど、当時の彦根にはおられ
るはずありません。しか
し、対象建物に「疎」と書
いた紙が貼られると、数日

以内にその建物はそこに
あつてはならないのです。

この年の五月、政府は、
爆撃を受けた際の後処理な
どを円滑に進めるために、
地域ごと子どもや女性な
どを中心とした「国民義勇
隊」を編成しました。この
国民義勇隊が強制動員され
て、実際の建物疎開の遂行
を担いました。

国政の名の下に

七月の半ば、純正寺の解
体・撤去のために地域の女
性や子ども達が集められま
した。当時、撤去に駆り出
された子どもだった純正寺
の元門徒総代の男性は「お
寺を壊すのは子どもながら
に辛かったので、隠れて参
加しなかった」と、当時を

振り返っておられます。

そして、実際の解体に従
事された人や、それを見て
おられた人は、「とにかく
倒れにくかった。何本かの
太い柱にロープをつなぎ、
一般家屋の数倍の人が引つ
張ってもなかなか倒れな
かった。しかも、屋根瓦を
はじめ殆どの建具は取り付
けられたままだったので、
なおさらだった」「こんな立
派なお寺を壊さなならんと
は、ご院家さんや家族の方
はどんな思いだろう」「本堂
が倒れた瞬間、轟音と壁土
等の粉塵で、しばらくは一
寸先も見えなかった」「あの
尊大な本堂が一瞬にしてが
れきの山と化し、我れ先に
と廃材を薪として持ち帰る
様は、浅ましい限りであつ

た」と話されました。

寺院という、ご門徒や地
域の人々の拠り所となる
場所が、国政の名の下に
解体されるという現状に、
四百五十年余りの長き歴史
に渡り護り引き継いできた
当時の住職(私の祖父)に
とってはその瞬間は見るに
堪えないものであり、解体
時には現場に居合わせな
かったと聞いています。

当時の住職と仲の良かつ
たご門徒の「解体されて廃
墟と化した純正寺跡に、衣
をまといただ静かに佇む住
職の姿を、忘れることがで
きない」という話には、当
時の住職の心中を察するに
余りあるとしか言いようが
ありません。次号に続く



純正寺7月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ 一、四七四、八八六個

梅雨なのに、もう真夏並みの厳しい暑さです。今月も、多くの方のご協力で八五一四個のキャップが集まりました。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

2日(土)・30日(土)
16:00~18:00
就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めをした後、住職が仏典童話の読み聞かせをします。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

10日(日)・24日(日)
16:00~18:00
小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。手洗い・マスクを忘れずに。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

12日(火)・26日(火)
10:20~11:30
年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くても柔らかな身体と心を作りましょう。

みんなの食堂ビハーラ

14日(木)・28日(木)
17:00~19:00
年齢・性別は問いません

今月も、感染対策に配慮しつつ、子ども同士や親子で、楽しい夕食のひと時を過ごしましょう。

「月例法話座談会」

15日(金)
14:00~16:00
年齢・性別は問いません

日常の「何故?」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

世のなが安穏なれ「ビハーラ彦根」

16日(土)
18:00~20:00
年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

こんき常例布教

25日(月)
10:00~11:30.13:30~15:30
年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法友ができる法座です。ご法話は、純正寺釋尊恵住職の「己が身に引き比べて」です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:45
年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。LINELIVEで生配信もします。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません
生きることが辛くなる悩みは、早めに気軽に相談下さい。
相談予約専用電話番号は 090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスは namo-yorozu@docomo.ne.jp

参拝者用の新駐車場について

純正寺参拝者用新駐車場に、区画白線と看板が整備されました。区画によって、二台縦列駐車になる区画と、一台単独駐車になる区画とがありますので、ご注意ください。また、隣接地との間に設けられた低い高さのブロックは、お車との接触の危険性がありますので、重ねてご注意ください。

「てられんけん」是非受講下さい

先月号の第一面でご紹介しました、門徒推進員養成連続研修会、純正寺「てられんけん(彦根組後援)」。せっかくお寺と関わっているのに、仏教を正しく深く学べないために損をしているあなた、是非お申し込みください。きっと、お念仏があなたの「生きる力」になります。本当のことです。